

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第12回

ニチニチソウ



ニチニチソウはキョウチクトウ科に属し学名がCatharanthus roseusでマダガスカル原産の1年生草本です。



花が1日花であることからその名が付けられ、夏にキョウチクトウ科の特徴ある巴状の赤、白、ピンク等の花を開きます。色々なビンカアルカロイドと呼ばれる一連のアルカロイドを含んでいます。

医薬品としては地上部、特に葉を抽出してビンブラスチン、ビンクリスチンを単離し、重要な天然由来の抗がん剤として白血病、小児がん、慢性リンパ腫等に用いられています。

大変複雑な構造をしていますので化学合成することなく、マダガスカルやインドネシアで栽培され生産されています。収量が低いので日本では採算が取れず栽培・生産されることはありません。

本画はボタニカルマガジン掲載のカーチスによる1780年代の作品です。